高砂市議会議員
# たかお治久（はる ひさ）後援会 会報 NO.20

■発行日／平成28年11月　■編集発行／鷹尾治久後援会　■後援会連絡所／カネカ労組高砂支部内

いつも大変お世話になっております。高砂市議会議員のたかお治久です。今回の会報では以下のことについてご報告をさせて頂きます。

1．これから高砂市がやろうとしていること
2．９月定例議会での私の一般質問
3．耳より情報

## 1. これから高砂市がやろうとしていること

これから高砂市がやろうとしていることを下の通り絵で描いてみました。平成 30 年には高砂町に街歩きの拠点（工楽邸改修）ができ、31 年には給食センター、33 年には新市役所庁舎が完成します。その一方で、高度成長時代に造ってきた公共施設の多くが老朽化を迎え、全ての施設を維持管理することは不可能と結論が出ています。具体的には今後 20 年で 15%、40 年で 30%の削減目標（素案）が出され、来年度以降はどの施設を削減するかの議論となっています。

現在（H28）

**過去**　豊かな財政を背景に多くの施設を所有している高砂市

**新図書館完成（H28年）**
**ユーアイ帆っとセンター（H27年）**

| | |
|---|---|
| 市役所庁舎 | 幼稚園（8園） |
| 総合運動公園施設 | 小学校（10校） |
| 文化会館 | 中学校（6校） |
| 文化施設 | 市営住宅（多数） |
| 消防施設 | 集会所（多数） |
| 公民館（8館） | 公園（多数） |
| 病院 | ポンプ場（多数） |
| 子育て支援センター（2館） | 道路、橋りょう |
| 保育園（7園） | 等々 |

## ① 高砂市役所は　現地建替えで決定（平成33年竣工）

老朽化著しい市役所本庁舎については、今９月定例議会にて、当局提案通り現地建替えで進めることが議員各位にて確認され、今後は執行にむけ事務が進むことになりました。（建設場所が移転する場合は議決事項であるが移転しない場合、建設場所は議決事項にならない）

**経緯**　昭和 32 年建設の市役所本庁舎は平成 20 年の耐震診断にて改めて耐震性問題が顕在化し早急な代替案が必要となっていました。議員や市民の中にも明姫幹線南地区への移転等建設場所について様々な意見があり中々結論が出ませんでした。そんな中、財政事情や立地場所等を勘案し今般現地建替えで多くの議員の賛同が得られ、事業が進むことになりました。

## ② 中学校給食向け給食センター（平成31年10月頃スタート）

高砂市の中学校給食は給食センター方式にて平成31年10月よりスタートします。このセンターの建設場所は、竜山中学校の西側（右地図）に決定しました。

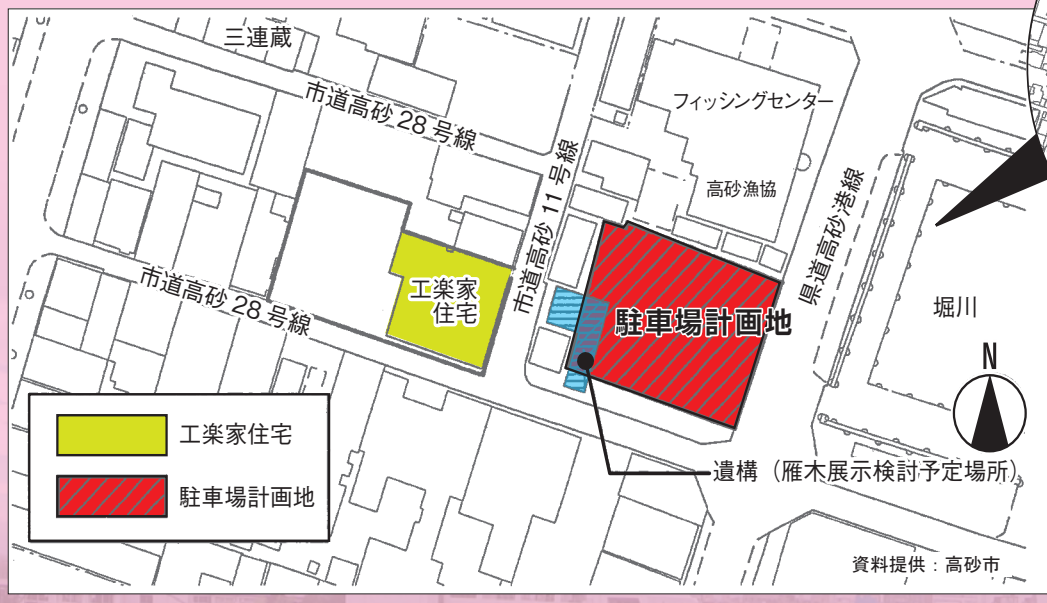
**経緯**　教育委員会では平成 26 年２月より高砂市中学校給食検討委員会にて中学校給食の実施を検討し、同年 10 月より小中一貫教育を行っている高砂中学校で給食を実施しました。その他５校についてはそれぞれの中学校での自校方式を検討しましたが学校敷地内での給食室確保が難しく再協議の結果、給食センター方式での実施（案）としました。

**私の主張**

**自校方式、センター方式共にメリット・デメリットがあるのですが、センター方式は校庭内空間を現状通り使える事に加え、一か所での衛生管理の徹底、初期投資、運営費の軽減等メリットもあり、これで良いと判断しています。**

## ③ 工楽邸改修・まち歩き拠点づくり（平成30年度完成）

高砂市は従来より「歴史・文化が息づく活力と潤いのある街　高砂」を都市整備の方針に定め整備を進めてきており、今般その観光（街歩き）の拠点づくりとして、偉人工楽松右衛門氏にまつわる邸宅を保存整備し（中にはお土産コーナー等を設置予定）、またその東側には駐車場を設ける計画で、これらトータルを３年３億円を投入して手掛けることにしました。

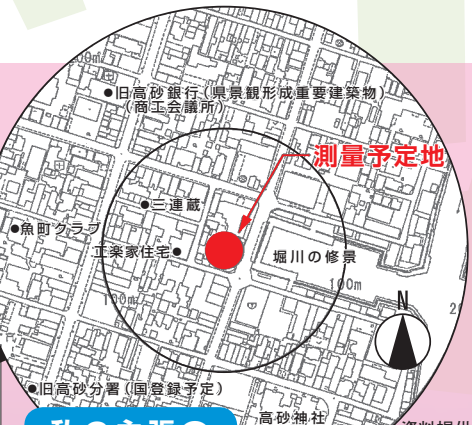


**私の主張**

私は総合的に判断し現地建替えが妥当と考えています。

但し現地は河川横で地震での側方流動（地滑り）により庁舎倒壊が懸念されることから専門家によるその対策が施されていることをしっかりと確認したいと考えています。

資料提供：高砂市




資料提供：高砂市

**私の主張**

歴史文化を大切にすることは大賛成ですが、その事業が中途半端なものにならないかが非常に心配です。駅からのアクセス、地元の理解・協力等クリアすべき課題山積の為、プロジェクトリーダー（責任者）設置を提言しています。

## ④「道の駅」検討中

高砂市は現在「道の駅」を検討中です。実現可能か否かを含め今後数年をかけて検討する段階で、場所は勿論、運営方法（公共運営か民間運営か）等についても今後の検討課題となっています。

**私の主張**

道の駅を通じ高砂市に何が出来るのか、まだまだ未整理で自分の意見も纏まっていません。ただこの事業を行政だけで実施した場合、大きな負担になることは確かで実施する場合には、その目的を明確にし、運営方法等については出来るだけその負担が軽減できる策が見通せることが重要と考えています。

**・・・・人口減少社会を見据えた大転換策として・・・・**

## ⑤公共施設の削減

高砂市は日本全国の多くの自治体と同様に過去に高度成長、人口増に伴う施設の増加＝公共サービスの充実、という視点で街づくりを進めてきました。そしてまた多くの自治体同様に今後急激な人口減少を迎え公共施設の総量を維持することが困難な時代を迎えることが明確になっています。

今般、市当局により公表された『高砂市公共施設等総合管理計画』（素案）によると削減目標は下記の通りとなっています。

**公共施設削減目標**

総床面積の

**最終➡40年間で 30%**

**（中間➡20年間で15%）**

**正念場!!**

市民の皆様も施設削減には理解を示すものの自分の身近な施設の削減（廃止）となると賛成し難いものです。総論賛成各論反対にどう対処するか、これからが正念場です。

**私の主張**

総論賛成各論反対を突破する前提として「何故削減が必要か」丁寧で分かり易い説明を市民の皆様に十分にすることが先ず必要です。その上で一定の考えのもと、削減対象を明示し、計画的に実施することが必要だと考えます。

しかしこのことは容易に計画通り進むとは考え難く、市民各位が持続可能な市の運営の為に 自分に恩恵のある施設 を15%削減するとしたら「何を犠牲に出来るか」を自分の課題として考えることも大切であると思います。

## 2. 9月定例議会での私の一般質問

９月定例議会で私は「高砂市のまちづくりについて、『高砂市緑の基本計画』を受けて」と題し質問をさせて頂きました。同計画は平成 10 年に作成後 15 年が経過し今般改訂されたもので、過去の目標の達成状況と今後の目標値が具体的にいくつも掲載されています。

### 私がこれをテーマとした理由

私はまちづくりにおいては **景観が非常に大切** と考えています。そして今高砂市内を見渡した時、美しい海や山等に囲まれており、多数の公園を有しているにも関わらず、公共工事を経た結果、景観を損ねる箇所が散見され、今後の行政施策に改善を求めたいと考えた為です。高砂市に住んでいる人が住んでいることを快適に感じ、住み続けたいと思う為に何が必要か、そう考えた時にも自分の周りの空間、例えば公園や道路、目に見える風景（景観）が丁寧に管理された豊かな緑に包まれていることは非常に大切と感じます。

一般質問での質疑では私の思いが十分に伝わったとは言い難く、今後もあらゆる場面で、『高砂市緑の基本計画』にも謳われている「景観形成機能」の大切さを訴え、施策への反映を求めていきたいと考えています。

## 3. 耳より情報

### ① 高砂市の図書館では携帯電話で借りる図書の予約、希望公民館での受け取りが可能

図書館会員になって頂く為に一度は図書館に行って頂く必要がありますが、その後は自分の携帯電話から借りたい本と受け取りたい公民館（市内８か所）を指定し、受け取ることが可能です。仕事で中々図書館に行けない方等、このシステムを是非ご活用下さい。

### ② 公民館図書室は夕方以降も利用可能な場合あり

市内８か所にある公民館には全て図書室が設置されています。その図書室は公民館が開館中の定時までは利用可能な上、定時（午後５時 15 分）以降も、習い事等で公民館が開館している場合は、図書室も利用が可能です。子育て家庭や何らかの事情で自宅で一人の時間が確保できない場合等に読書や勉強の場として有効に利用できると思います。是非ご活用ください。

### ③ 会派報告会＆高砂市役所による『まちづくり出前講座』

我が会派では下記の通り会派報告会を開催し、加えてその後には高砂市役所による『まちづくり出前講座』という形で「高砂の観光、まち歩き等」について現在高砂市が考えていることへの説明を受け、意見交換会を開催致します。是非皆様お越しください。

**平成28年11月18日（金）18時30分～20時　場所：ユーアイ帆っとセンター**

金曜日の夕刻でもあり、１時間半で効率よく進めたく、よろしくお願い致します。

＜鷹尾治久後援会役員＞
会長：渡邉登　副会長：北野光昭　松谷敏道　荒田修　西本裕行　幹事：吉田淳二　会計：松森 翔平　監査：和住真宏

日常お困りの市政相談は、お気軽にお電話ください。 **連絡所／TEL.079-445-2395**（カネカ労働組合高砂支部内）